

## あいさつ

釜利谷小学校には子どもたちが登校してくる門が3つあり、私はその付近に立って見守りとあいさつを行っています。菊池前校長から引き継いで、毎朝順番に回っています。それぞれの門には2日おき（休日をはさむ場合もあります）に立つわけですが、何回か繰り返すことで、朝の子どもたちの様々な姿が見えてきます。

その中でも、一番印象に残るのはやはり子どもたちの「あいさつ」の様子です。私が「おはようございます。」と言うと、様々な反応が返ってきます。

こちらを向いて「おはようございます。」と元気に言う子。

足元や前を見ながら、でも「おはようございます。」と言う子。

会釈だけする子。

こちらを見たのだけれど、あいさつする声は聞こえてこない子。

ずっと前を見て歩いていて、聞こえなかったのかな？という様子の子。

その日の気分や体調で、子どもたちの姿、反応も様々になるのだと思います。あいさつの声が聞こえなくても、またマスクをしていては口を動かしてもわからないけれど、実は小さな声で「おはようございます。」と言っているのかもしれない。何か別のことを考えていて夢中になっているのかもしれないし、あいさつをする気分になれないのかもしれない。

ただ、あいさつをしたらやはり、元気なあいさつが返ってくるととてもうれしくなりますし、返ってこないときさびしくなり、「どうかしたのかな？」と心配にもなります。子どもたちとの3つの約束の1番目に「しっかりあいさつ」と掲げてもいます。願わくは釜利谷小学校の子どもたち一人一人が元気にあいさつができるようになってほしいと思います。

「あいさつはコミュニケーションのはじまり」という意味の言葉を聞いたことがあります。お互いに気持ちの良いあいさつを交わすことができれば、人間関係の第一歩もスムーズに進むのではないかと、いうのもわかる気がします。お互いあいさつができたときのうれしさ。反対にあいさつしたのに返ってこないときのさびしさ、悲しさ。人によっては「無視された」と傷ついてしまうのかもしれない。



3番目の約束「自分から」のように、進んであいさつができるよう、そしてコミュニケーションの第一歩にできるように、これからも子どもたちに働きかけていきたいと思っています。ご家庭、地域でもご協力いただけますと幸いです。

裏山のフジの花が満開になっています。